

STRAYSHEEP



パパ...セックス...わたしに射精して...

【体験版】
プロローグ・第一章ダイジェスト &
第二章をまるごと収録♡




しあわせ
家族計画

~全裸娘のパパになります~





プロローグ・一章ダイジェスト版



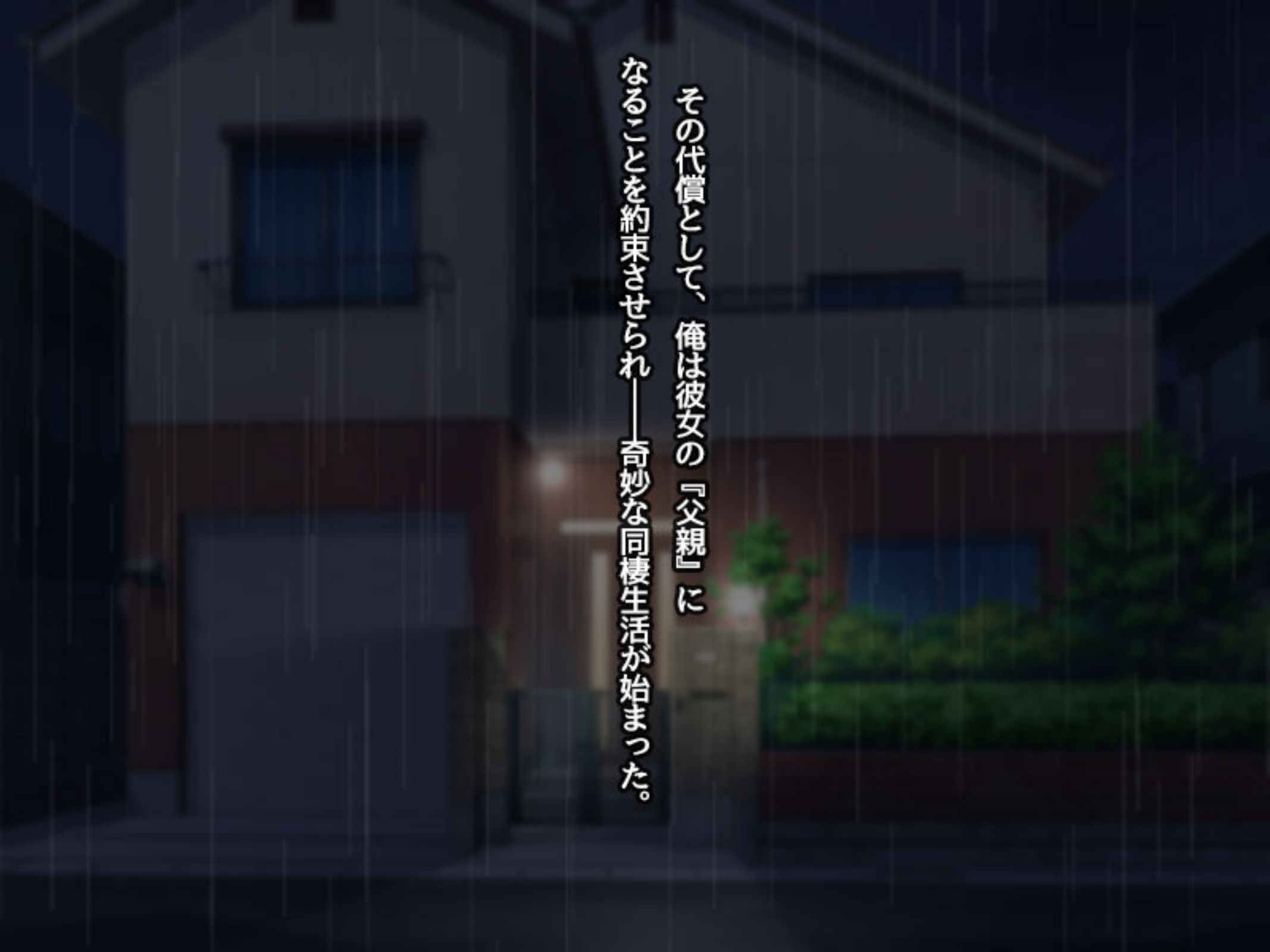
——とある雨の日、俺は道端で出会った『ルリ』と名乗る
全裸の美少女をアパートに連れ帰った。



彼女は俺を誘惑し……

俺は彼女の処女を奪った。



A dark, rainy night scene of a modern house. The house has a light-colored upper section and a darker, wood-paneled lower section. A central entrance is brightly lit from within, creating a warm glow. To the right, there are some green bushes and a small tree. The overall atmosphere is somber and quiet.

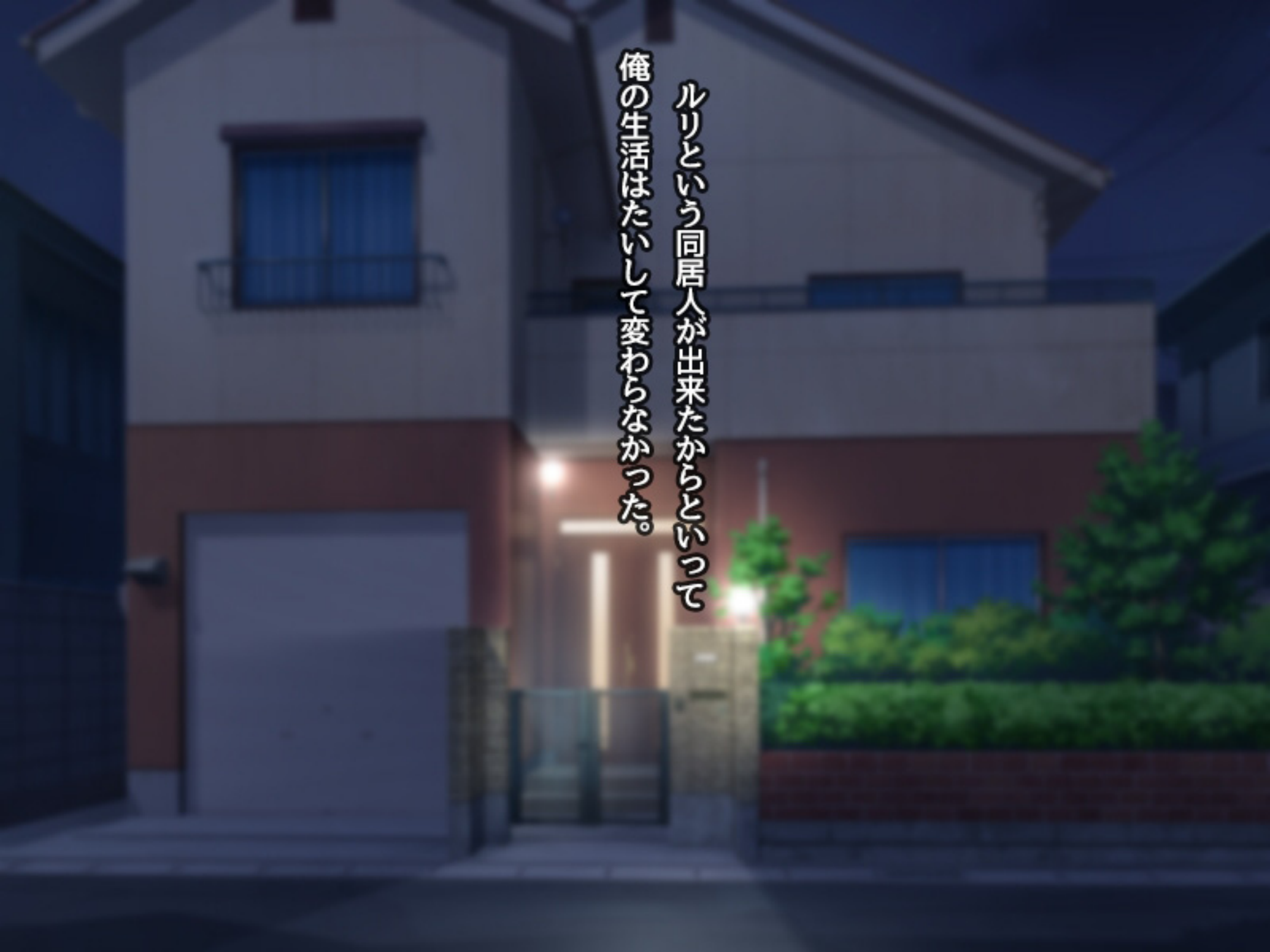
その代償として、俺は彼女の『父親』に
なることを約束させられ——奇妙な同棲生活が始まった。



to be continued...

第二章



A modern two-story house at night. The house has a white upper half and a reddish-brown lower half. On the left is a white garage door. The entrance is in the center, with a small porch and a light fixture above the door. To the right of the entrance is a window with blue curtains. There are some green bushes in front of the house. The sky is dark blue.

ルリという同居人が出来たからといって
俺の生活はたいして変わらなかった。

「…ただいま」

「あつ！ パパ、おかえり〜！

アイス買ってきてくれた？」

ただ、仕事から帰ったとき、

家に人がいてくれるというのは嬉しいものだ。

「まずそれかよ…ていうか、服着ろよ」



「え〜、ヤダ。ゴワゴワするし…」

それより、アイス、アイス！」

「はあ…ほらよ」

「わーい、ありがとう！」

「コンビニの袋を渡すと、

彼女はその場で中から棒アイスを取り出し、口に含んだ。

「んー！ おいらしー！」

こんなときの笑顔は、普通の女子とそう変わらない。

しかしー

「んっ、ちゅっ……じゅるっ……あむっ」



——アイスの舐め方一つとっても、

彼女の動作はいちいち官能的だ。

狭い部屋の中、なんともいえない気まずさを感じる。

……というかコイツ、本当に何者なんだ？

同居を始めてから幾度となく抱いた疑問が再燃する。

—あの日、雨の中を全裸で歩いていたこと。

—処女のクセに、エロい事に妙に手慣れていたこと。

—服を着せようとするのと嫌がり、裸を好むこと。

どれをとっても、まともではない。

単なる家出少女という範疇には収まらないおかしさをを感じる。



家はどこか、何歳か、親は何をしているのか。

そんなことを何度か質問しているのだが、

そのたびにはぐらかされてしまっている。

だから、俺は彼女のことを『ルリ』という

名前以外には何も知らないままにいる。

——しかし、彼女が話したくないならば、
彼女が何者かなんてことは
それほど追求したいとも思わない。

「んっ、アイスありがと♡」

それじゃあ、そろそろ『お礼』しないかね♡」

「…ああ、頼むよ」



つまるところ、俺は彼女に住処を提供して

彼女は俺に身体を差し出す。

そんなギブ&テイクが成立しているのだから

無理に問い詰めて関係を壊したいとは思わなかった。

いまのところ俺たちは、それなりにうまくやっている。

「…こんな感じ?」

「ああ、すぐくエロい」

「ふふっ、ありがとう♥」

ルリは裸のまま

カーペットに寝そべっている。

そして俺は、そんな彼女の前に
股間を突き出して待機している。



「じゃあ、始めるね」

ルリがズボンのジッパーを

口のみを使って下ろす。

「んっ…ちよつと、難しい」

そう言いながらも、

彼女はすぐさま俺の下半身を

丸裸にしてしまった。

「あっ、もう立ってる」♥

今日はこのまま、手を使わずに

奉仕をしてくれるらしい。





Xolson
Tissues

「いただきます」

俺の肉棒が彼女の

小さな口に咥えこまれる。

「んむっ…♡ ちゅっ♡」

じゅわん じゅわん

「うあっ…」

カリ首のあたりを強く刺激されて、

思わず声を漏らしてしまっ。



「…さん♡」

じゅぶっ

じゅぶっ

じゅぶっ

「…っ」

俺の反応がお気に召したのか、
彼女はより強い刺激を与えてくる。

「ルリっ…もうすぐ、限界…」



「…んむっ♡」

俺の言葉を聞いて、

彼女は肉茎を喉の奥まで
差し込んだ。

ぐぽっ　ぐぽっ

ぐぽっ　ぐぽっ

喉の肉に包み込まれ、

素早いピストンで快楽を与えられる。



ほどなくして、

俺は絶頂を迎えた。

びゅん

びゅん

「んむっっ！」

ん…んんっ…♡」

大量の精子が彼女の喉に流れ込み、

一部は口から滴り落ちた。





「んんんっ

ぷはあく♡」

彼女が口をあける。

「いっぱい出たねっ

んん…」

んんんっ んんんっ

彼女は俺に口内を見せつけたあと、
残っていた精子を呑み込んだ。



「…うん、今日も濃いね♡」

「まあな」

「でも、ちょっと

出すのが早かったかな〜」

「…勝手に言ってる」

——とまあ、最近ではこんな風に

エロい事をしながら軽口をたたく

余裕まである。

このくらいの行為は、

俺たちにとっては日常になっていた。



——翌日は、風呂場で

アナルセックスを
することになった。

「…本当に大丈夫か？」

「うん、もう綺麗に

しておいたから、

いつでも使えるよ♡」





試しに、尻穴へ
指を入れてみる。

「ゆふり」

「ひあぁっ♡」

指はすんなりと

穴の中にもぐりこんだ。

「んもっ♡」

入れるなら、

おちんちんに

「っよっー」





「それもそうだな…」

お言葉に甘えて、

すぐに俺のモノを

尻穴に挿入する。

ずいゆっ

「あっ♡

入ってる♡」





「んはああっ♡」

ずいゆっひ

小さく見えた尻穴は
思うのほかよく伸び、
俺を受け入れる。

「おしりち…♡」

もつと、突いてえ♡」





「ははっ…なんだよ

マンロより具合がいら

くらいじゃないか?」

「うんっ♡

わたしっ

お尻は丈夫だからっ♡

思いっきりパンパンしてえ♡」

ずいゆっ ずいゆり

請われるがままに、

俺は全力で腰を打ちつける。





「はぁあっ——♡

もっっっ、イっちやうっっ♡」

彼女の腸内がうねる。

「あっ♡ あっ♡

んぁぁぁ——っ♡」

「んっー」

っっっっっ っっっっっ

その動きに耐えられず、

俺もすぐさま射精した。









くばあ

俺は彼女の秘部を広げる。

「ひゃっ…♡」

「…傷は、もうないな」

処女膜を破ったときの傷は、
もう完全に治ったようだ。



「ぶぶっ、心配してくれてたの？」

「ありが…ひあっ♡」

生意気な彼女の秘部を舐めてやる。

ぺちゅ ぴちゅ

「やっ…♡ 刺激っ…強くて…」

「もっっっ…いっちゅっちゅっっ♡♡♡」



「♡♡♡♡♡」

びゅん びゅん びゅん

しばらく舐めまわしてたら、

絶頂に達してしまっただようた。

「もう準備万端だな」

そんな彼女の膣口に、

俺のモノを添えてやる。



「あっ…いまイッたばかりだから…

あっ♡ はああっ♡」

ずぶっっ

「ひあっ♡ ああっ♡

やっ♡ あっ♡

ふといおちんちん、入ってきてるっ♡」







「~~~~~♡♡♡♡♡」

「EVEN」

「EVEN」





「あっ…精子…おなかのなかに
欲しかったのじい…♡」



「むっっっ…どっっっっ中玉っ

してくれないのっ！」

布団から起き上がった彼女は

へソに溜まった精子をいじる。

「そうは言っても…

もしも妊娠したら

大変だからなあ」

「妊娠かあ…

それは困るかも」





「…でも、そうになったら

責任とってってくれるでしょ♡」

「あ〜……」

——保険証なんてないし、

年齢も成人しているようには

見えないから、病院には

かかれないだろう。





しかし、口の堅い助産婦が
いればなんとかなるかもしれない。
通いで来てもらって——。

…と、そこまで考えて気付いた。

——俺、いつまでルリと

一緒に暮らすつもりだ？



例えば、彼女が家にいることが
当たり前のようになっていた。

たまたま出会って、むりやり

家に居つかれたというのに、

俺にはもう、ルリがいない

生活が想像できない。

いつのまにか、

彼女は俺にとって

かけがえのない存在に

なっていた。



「……もしも私が妊娠したら、
うう、出てかないとダメ、かな」
返事をせずに考えごとを
していたら、不安そうな顔で
尋ねられた。

「……まあ、そうなったら
仕方ないよね。パパに
迷惑かけたくないし……」
挙句の果てには、
そんなことまで
言わせてしまう。



「…そんないと、なら」

「えっ?」

「迷惑なんかじゃない。

約束する。何があっても、

俺はお前を追い出すとか…

見捨てるようなマネはしな」

回が勝手に動く。

「ずっと一緒に暮らそう」



「…うん、ありがとう！」

そう言っつて、彼女は

頬を赤らめながら

目をそらした。

照れくさかったの

かもしれない。





「…なんだか本当に

パパができたみたい…」

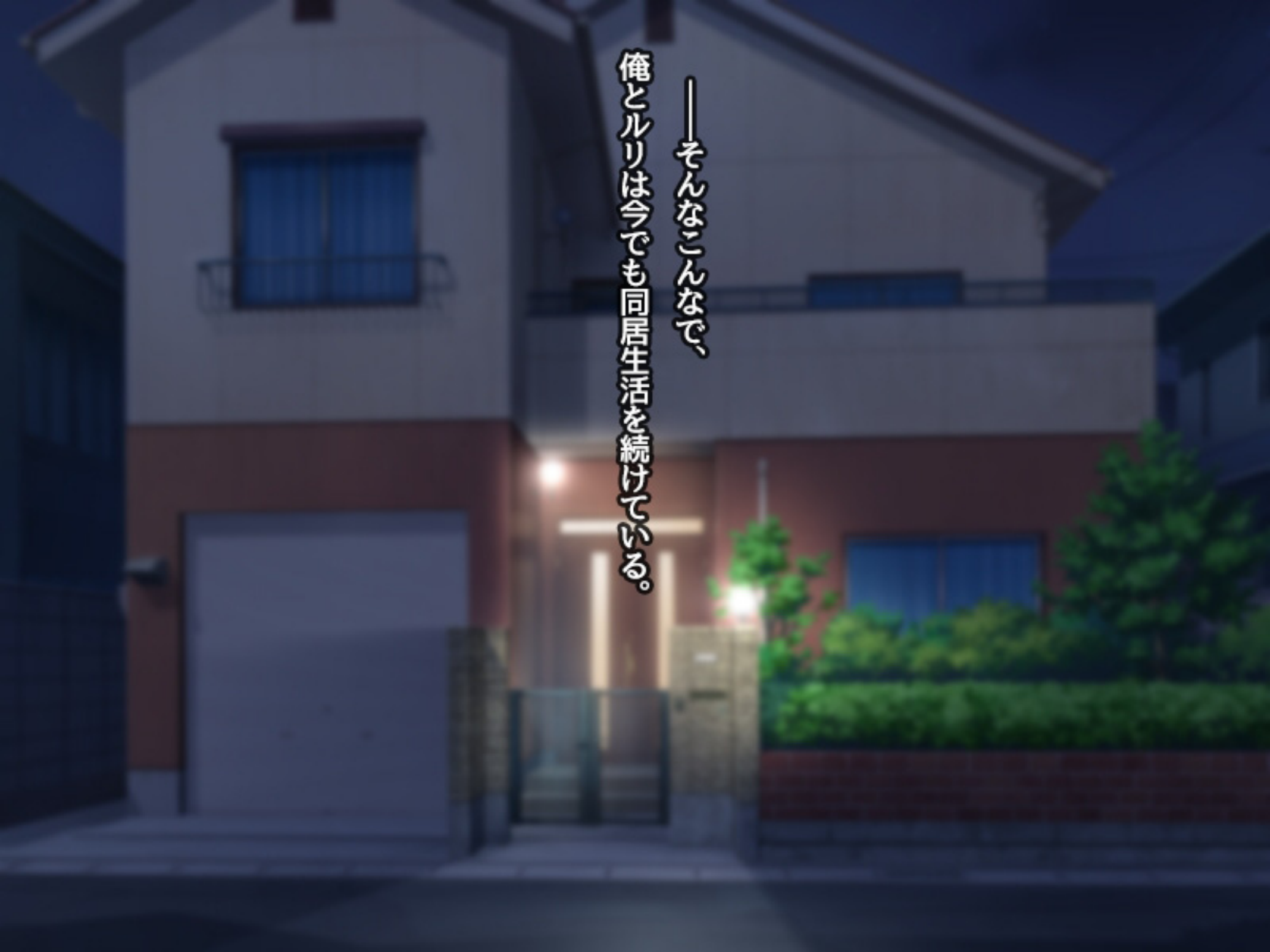
「…ん？ 何か言ったか？」

「むっ！ なんでもない！」

そんな会話をして、

二人で抱きあって眠った。



A two-story house at night. The house has a white upper half and a reddish-brown lower half. On the left is a white garage door. The entrance is illuminated by a warm light, and there is a small tree and a hedge in front of the house. The sky is dark blue.

—そんなこんなで、

俺とルリは今でも同居生活を続けている。

A two-story house at night. The house has a white upper half and a reddish-brown lower half. On the left is a white garage door. The entrance is in the center, with a wooden door and a small porch. A light fixture is mounted above the door, and another is on the wall to the right. There are green bushes in front of the house. The sky is dark blue.

だけど――

楽しいことには、
終わりがつきものだ。

「ただいまー」

玄関で靴を脱ぎながら、帰宅のあいさつをする。

「……ルリ?」

いつもならすぐに帰ってくるはずの返事が、今日は無い。

「…寝てるのか?」

いつも起きて出迎えてくれるので、

少しばかり違和感を覚えながら室内へ向かう。

www.123.com



非現実的な姿の彼女がいた。





「なっ……ルリッ！ どうした!？」
俺は彼女に駆けよる。

「ムグッ！」

「なんだよっ！ これっ！」

ひとまず、すぐに外せる

アイマスクを外す。

「フ…グッ…！」

何かを訴えかけるような眼。

俺は急いで口の拘束具に

手をかける。





拘束具が外れる。

「パパだめッ！ 逃げてッ！」

「え？」

彼女が何を言っているのかわからない。

「うしろッ！ 見てッ！」

「…ッ！？」

俺は振り返る。





—女？

誰だ？

なんで家の中に—？

「…ふんっ—」

「…おっ—」



倒れる。

天井が見える。

「これでじぶらくは起きならわ
連れていきましたよら」

女の声が聞こえる。

—そして俺は、意識を失った。

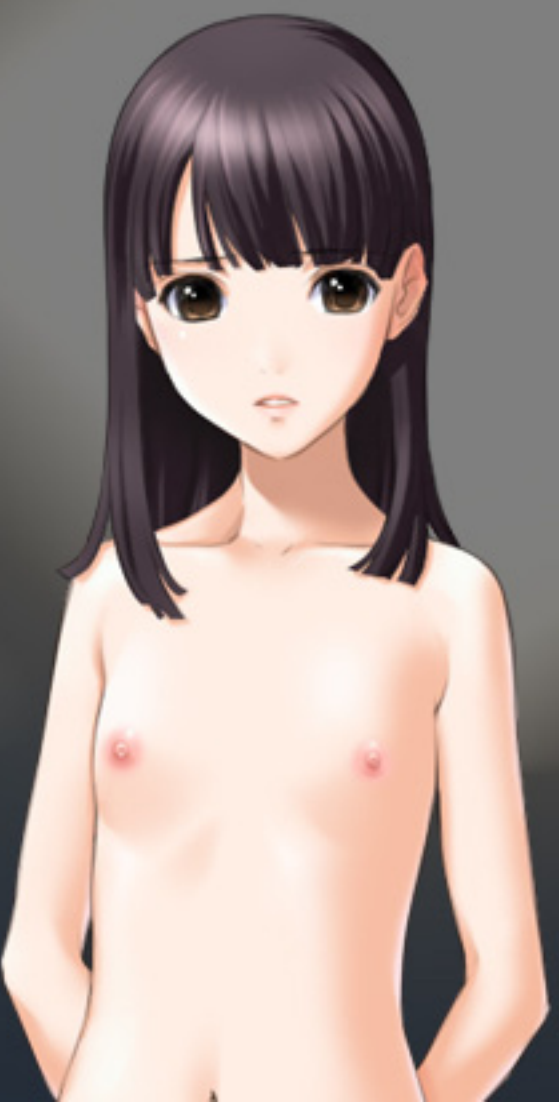
to be continued...

【以下、登場人物による製品版の宣伝となります。

作品本編ではありませんのでご注意ください】

「…えっ！ これで終わり？

続きはどうなるのっ？」





「わたしたちとのエッチは、おあずけだよ♡」



「…ごめんなさい、体験版だとここまで、です」

「…まあ、ネタバレになるけれど、

あれ以上ルリのことを虐めるつもりはないわ」



「私は一応、あの子の『育ての親』だからね。

……続きが気になるようなら、製品版で確認して頂戴。

悪いようにはしないつもりよ」

「ちなみに製品版だと、『プロローグ』と『第一章』が
もう少し長くて、あなたがルリの処女を散らす所も
ばっちり映ってるわ」



「私達がメインで登場する【第二章】と……
ルリとあなたが再会した後の【第四章】、
それから、半年後の後日談を描く【エピローグ】も
収録されるわね」

「それから、この体験版は8000×6000の画面サイズだけど、製品版には1440×1080サイズの少し大きな画像も収録されてるわね。好きな方で読むと良いんじゃないかしら?」



「あとは…アダルトシーンの画像にビデオファインダー風のフィルターや写真風の白枠を加えた「おまけ画像」も2サイズ収録されるみたいだから、ハメ撮り趣向ある人はそれも楽しめるんじゃないかしら」

「……説明が長くなったわね。」

「……ここまで読んでくれて感謝するわ。」

「買ってこれれば嬉しいけど、」

「無理はしないでいいんじゃない?」



「……まあ、期待しないで待ってるわ」

「最後に、1440×1080サイズのCGとおまけ画像のサンプルが入っているわ。それでこの体験版は本当におしまいね」

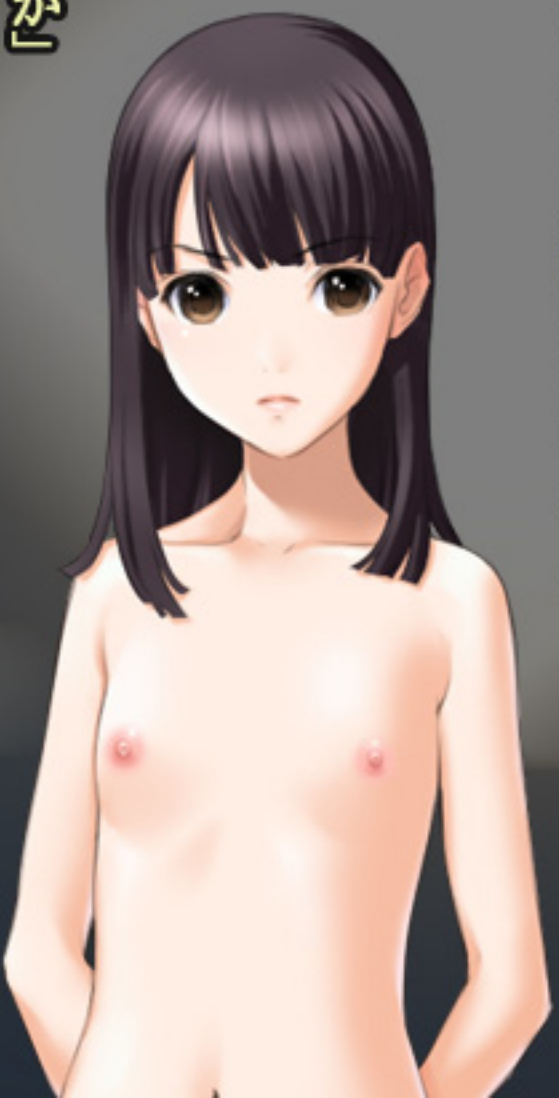


「…それじゃ、また機会があったら会いましょう。
……じゃあね」

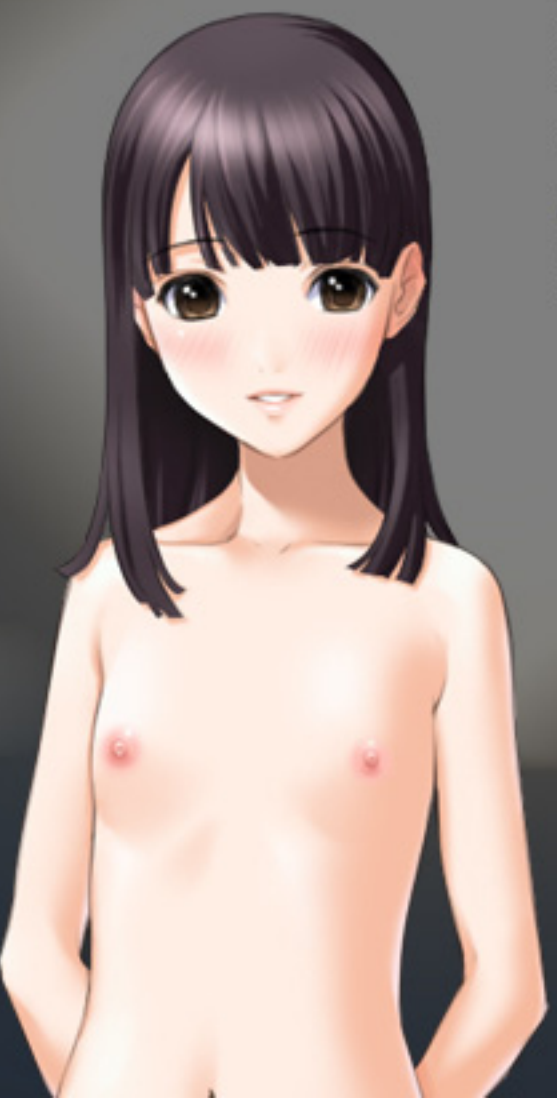
「…なんだか、あとから来た人に

いらいところを全部持っていていかれた気がする…」

「……まあ、いつか」



「というわけで、体験版はこれでおわりです。
よかったら製品版も買ってね♡」



「……パパが本当の『パパ』になってくれるのを、
わたしは、ずっと待ってるから♡」

to be continued... 【体験版END】

1440×1080



800×600

【800×600、1440×1080サイズ比較用サンプル】



120min

● REC TCG 00:03:14:08

089min

HQ 60P



TLCS STD

On

SHT:OFF

Full Auto

CH1 【ビデオファインダー風おまけ画像サンプル】



【写真風おまけ画像サンプル】